

令和4年度大分県民スポーツ大会における新型コロナウイルス感染防止対策について

【 6 ウエイトリフティング 】

1. 競技会感染対策ガイドラインについて

公益社団法人日本ウエイトリフティング協会 令和3年1月28日

新型コロナウイルス感染に関する各都道府県の競技会再開に向けた感染拡大防止ガイドライン
(更新版) ※別紙参照

2. 各競技運営上での感染対策について

1. 全般的な共通事項

- (1) 参加する郡市は、選手・監督の「健康チェックシート」を受付で提出すること。(本部保管)
- (2) 競技役員等の来場者も「健康チェックシート」を受付に提出すること。(本部保管)
- (3) 参加する選手は、発熱等の症状がある場合は、参加を見合わせる。(当日の体調急変を含む)
- (4) 参加者は、マスク着用(息苦しさを感じた場合は外す)、咳エチケット、こまめな手洗いなど、基本的な感染症対策を徹底すること。
- (5) 大会本部は、競技会場各所に手指消毒薬を、トイレ等には手洗い用石鹸を準備すること。参加者が触れる場所はアルコールや次亜塩素酸ナトリウム等で定期的に消毒するとともに、競技に使用する共用の用具を消毒すること。次亜塩素酸ナトリウムを使用する場合は2度拭きすること。
- (6) 大会は、無観客とする。但し、各郡市体育協会の視察入場は可とする。また感染状況や競技特性により規制を変更する場合がある。
- (7) 大会本部は、密閉を避けるため、頻繁に会場の換気をおこなうこと。
- (8) 大会は、密集を避けるため、人が集まる場面では1～2m程度あけさせる。更衣室等の利用に当たっては、短時間の利用とし一斉に利用しないようにすること。
- (9) 競技は密接を避けるため、握手やハイタッチなどの身体接触をしない。近距離での会話や発声をしない。応援はメガホン等を使用しない。水分補給用のボトル等、チーム内で共用しないよう指導すること。
- (10) 県内の感染状況等により、急遽、大会中止となる場合がある。

2. ウエイトリフティング競技における留意事項

(1) 会場

- ①各郡市は、控室(体育館)では、大きく距離をあけて分散をする。
- ②競技役員、競技補助員は指定された場所を待機場所とする。
- ③会場では換気を常に行う。
- ④会場での会話や声援を控える。状況により放送で注意を喚起する。
- ⑤利用後は使用した箇所の消毒を行い、ゴミは全て持ち帰る。

(2) 検量

- ①検量室に入るのは選手のみとする。
- ②検量時は記載された体重を目視で確認し、係がチェックを行う。(特別ルール)
- ③検量待ちの選手の間隔を適切に保つよう、表示をする。
- ④検量時も必ずマスクを着用する。(特別ルール)
- ⑤係員は最少人数で対応する。
- ⑥選手ごとに計量器の消毒を行う。
- ⑦室内の換気を常に行う。

(3) アップ場

- ①セコンドは1階級1選手2名とし、1階級の中で1名増すごとに1名追加とする。(特別ルール)
- ②選手以外はマスクを着用する。
- ③炭酸マグネシウムは、選手各自が用意する。(試合場でも同じ)
- ④アップ場所のリング移動は避け、同じバーを使用する。
- ⑤大きな声で指示を出さない。
- ⑥バーごとに消毒シートを用意し、常に消毒できるようにしておく。
- ⑦使用した器具の消毒を行い、持ち込んだものは全て持ち帰ること。
- ⑧階級の競技終了後、直ちに退場させ清掃と換気、器具の消毒を行う。

(4) 試合場

- ①選手のマスクの使用を認める。(特別ルール)
- ②器具係は、マスク・手袋を着用する。(特別ルール)
- ③試技ごとにバーを消毒シートで拭きとる。
- ④グループ終了ごとに、審判席、使用機器の消毒を行う。

(5) 式典

- ①開閉会式は実施しない。
- ②表彰式は実施しない。入賞選手は、自身で賞状を取り、表彰台に上がる。
- ③入賞者のマスク等の着用は任意とする。(写真撮影時のみマスクを外してもよい)

(6) 役員・補助員

- ①場内では、マスク（フェイスシールド等含む）を着用する。
- ②物品の受け渡しを伴う係は手袋を着用する。
- ③大きな声は出さず、必要な指示は場内放送を使用する。
- ④互いに適切な距離を保ち、三つの密を避ける。
- ⑤通常の大会とは異なる状況であること理解し、役員は、参加者の模範となる行動を心がける。
- ⑥健康管理に留意する。
- ⑦会場内を巡回し、感染防止対策が実施されているか点検し、不備があれば指導する。(係員、巡回場所・時間を決めて対応する)